関係者の皆さま

galerie taménaga
depuis 1969
TOKYO PARIS OSAKA KYOTO

ギャルリーためなが
東京都港区南青山 6-5-39
2026 年 11 月吉日

「新京都（いまきょうと）」展 開催のお知らせ

ギャルリーためなが京都にて　12 月 5 日（土）から 2027 年 1 月 11 日（月・祝）まで



ギャルリーためなが京都では、毎年ご好評をいただいております「新京都（いまきょうと）」展を 2026 年 12 月 5 日（土）から 2027 年 1 月 11 日（月・祝）まで開催いたします（※冬季休廊期間：12 月 27 日～ 1 月 4 日）。4 名の若き日本人作家が描く“現代（いま）”が京都を彩ります。

本展は、文化の中心地として古くから歴史を刻み続ける京都という場所から、京都にゆかりのある日本の若手作家の魅力を発信し、千年先まで作品を残していきたいという想いを込めて 2022 年にスタートした企画展です。開廊して 5 年が過ぎた当画廊にとっても、新たな才能と出会い、これまで目にすることの少なかった作品世界を改めて見つめ直す大切な機会となっています。

アナログなコラージュや他者の記録の断片を具象と抽象の間で再構成し、見る者とともに曖昧で儚い「時間」の共有を試みる村田奈生子。人工鉱石（デトロイトアゲート）の模様を自身の経験に重ね合わせ、自己の在り方を問う小松本結。異なる色が交わりながらも独立して共存する、豊かな色彩表現を両手両足で描き出す薬師川千晴。今回がギャルリーためなが初出展となる金子明日香は、建築設計の経験や各地の取材をもとに、現実の不自由さから解放された「起こらなかった世界」の風景を描き出します。

本展はあえて特定のテーマを設けず、「京都」というゆかりのみを軸とした自由で自然体な企画構成を特徴としています。枠組みに捉われないことで、芸術本来が持つ多様で豊かな広がりをお楽しみいただけます。

さらに「新京都展」は、パリ店での展示へと繋がることも多く、京都から世界へと羽ばたく登竜門としての役割も担っています。 今後も末永く継続していく本展にて、京都の地から世界へ向けて発信される若手アーティストたちの伸びやかな感性をぜひご高覧ください。

【出展作家 4 名】

村田 奈生子　/　Naoko MURATA



1984 年大阪府に生まれる。京都精華大学芸術学部造形学科日本画専攻卒業。
アナログに構成したコラージュをもとに、時間をテーマとしたモノトーンの抽象画を制作している。幾何学的な図柄や勢いのあるストロークを画面上で再構成することで現れる新たな形を、「現在」という瞬間に重ね合わせ、形がなく、人間の意識の中でのみ捉えられる曖昧で儚い「時間」の可視化を試みている。色彩を抑えた画面構成ながら、大胆な筆致と構図によって、静寂のなかに躍動感をも感じさせる。
「Idemitsu Art Award 2024」入選。近年の主なグループ展に「新京都(いまきょうと)— 古都から千年先へ —」(ギャルリーためなが京都、2023)、「MONOCHROME（モノクローム）展」(ギャルリーためなが東京、2024)など。

小松本 結　/　Yui KOMATSUMOTO



1993 年三重県に生まれる。京都芸術大学大学院（旧京都造形芸術大学大学院）美術工芸領域油画（版画）専攻修了。
油彩やアクリル絵の具を用いた「垂らし込み」と呼ばれる技法によって生み出される層状の模様は、アメリカの自動車工場で塗料の堆積によって偶然生まれた「デトロイトアゲート」がモチーフ。
絵の具の流れや重なりによって生まれる色彩の層に、乾燥後さらに描き込みを重ねることで、偶然性と作家独自の表現が融合した作品を生み出している。
視線を奪うようなスタイリッシュな作品から、感情の揺らぎを想起させるメランコリックな作品まで、多彩な表現を展開し、現代を生きる人々の静かながらも力強い意志を感じさせる。
「FACE2020 損保ジャパン日本興亜美術賞展」入選。近年の主なグループ展に「新京都 IMA KYOTO」(ギャルリーためなが京都、2025)、「桜満載 Merry Cherry Blossom」(ギャルリーためなが京都、2026)など。

薬師川 千晴　/　Chiharu YAKUSHIGAWA



1989 年滋賀県に生まれる。京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程芸術専攻修了。
古典技法である練り込みテンペラを用いた自作の顔料絵具を、両手両足に直接つけて描く。作中では色と色の境目が、自己と他者や異なるもの同士が互いに受け入れ合う境界線として立ち現れている。
シリーズごとに様々な表現方法を選択しており、＜knock＞シリーズでは SNS 時代における自己と他者の関係性について、相手の領域に入る前の合図であるノックという行為に着目した。近年は海外での制作や展示も手がけ、世界から注目が集まっている。
主な個展に「ノックノック、境界の扉をノックする」(京都市京セラ美術館 ザ・トライアングル、2025)、「Through the Veil, Across the Rub」(銀座蔦屋書店、東京、2025）など。2019 年、滋賀県次世代文化賞受賞。

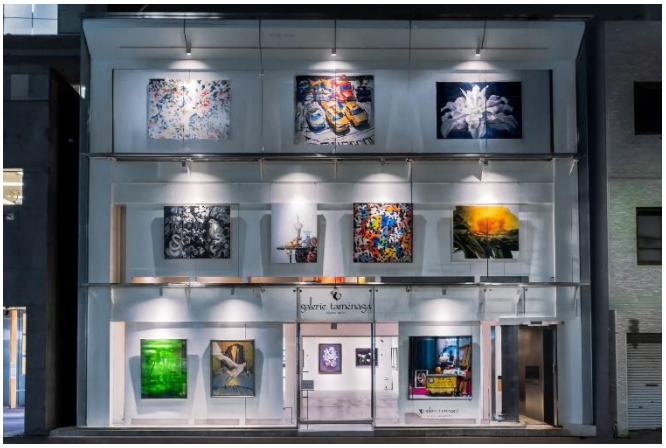
金子 明日香　/　Asuka KANEKO



埼玉県生まれ。東北芸術工科大学デザイン工学部建築・環境デザイン学科卒業。2024 年より京都を拠点に活動している。
設計やデザインに携わってきた経験から、建築家が構想として描くドローイングやアンビルド建築に関心を持ち、それらに見られる思考や迷いの痕跡を手がかりに制作を行う。実際に訪れた土地をモチーフに、アクリルや顔料インクを用いて、現実の不自由さから解放された風景を描く。イメージを形にする過程で生じる違和感を探りながら「起こらなかった世界」とはどのような風景なのかを問い続けている。
主な個展に「此処ではないどこか」(Gallery201、東京、2024)、グループ展に「白の方向｜Sens of Shiro」(京都 蔦屋書店、2026）など。

株式会社ギャルリーためなが

ギャルリーためながは 1969 年、銀座にて印象派から現代美術までを扱う画廊として創業し、以来半世紀に渡り国内外の美術館及び蒐集家に名品の数々を紹介してまいりました。1971 年にパリと大阪、2021 年に京都に開廊し、2025 年 9 月には発祥の地・銀座から新たなアートの発信地として展示スペースを従来の 3 倍に広げ、南青山・骨董通りに移転いたしました。現在は各画廊においてヨーロッパに限らず世界中から集まる作家達の作品を展覧し、特に最近は日本人作家の作品を見せる機会も増えており、美術業界において大きな役割を担っています。



ギャルリーためなが東京店



ギャルリーためなが京都店

【展覧会情報】

「新京都（いまきょうと）」

会期：2026 年 12 月 5 日（土）～ 2027 年 1 月 11 日（月・祝）

※冬季休廊期間：12 月 27 日（日）～ 1 月 4 日（月）

会場：ギャルリーためなが京都店（京都市東山区上堀詰町 265-7）

電話：075-532-3001

時間：10：00 - 18：00

公式サイト：www.tamenaga.com

【お問い合わせ】

ギャルリーためなが

東京都港区南青山 6 丁目 5-39

TEL： (03)3573-5368

E-mail：c.kameda@tamenaga.com

担当：亀田